

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

ウィズコロナ下の在外研究生活ークアラルンプール郊外にて

舛谷鋭 (立教大学観光学部教授)

大学人は研究が陳腐化しないよう、おおよそ 7 年ごとに長期休暇を取得できるが、私のキャリア最後のマレーシア研究はロックダウン(都市封鎖)と重なった。2021 年秋に渡航したかったが、20 年 3 月から観光客の入国は禁止され、入国後にビザ(査証)を切り替えるのではなく、渡航前のビザ取得が必須だった。

ジョホール州、ペナン島などの大学に受け入れを打診したが、コロナ下で講義などもオンラインだし、入国管理局に説明するのが難しいと渋られ、9 月中を見込んでいた渡航予定は 1 カ月以上遅れた。そうするうちに新型コロナウイルス対策の規制の緩和が進み、10 月半ばからワクチン接種完了者の入国時隔離が 1 週間に短縮された。



空港から隔離ホテルへ移送される証拠写真(筆者提供)

受け入れてくれることになった首都圏郊外の私大が機敏に動いてくれたので、日本からオンラインで完結できるはずのビザ手続きを行った。しかし出入国申請システム「マイトラベルパス」で申請を完了しても、入国手続きを効率的に進めるための「マイセーフトラベル」につながらず、結局大使館で一時入国ビザを取得することになり、11 月ようやくクアラルンプールでホテル隔離を始めた。

実は隔離終了後も 1 週間弱、政府の新型コロナ対策アプリ「マイスジャテラ」上の表示は赤信号のままだった。よくあることのようにだが、施設に入るには QR コードをスキャンして青信号でないと、守衛の検問に引っかかる。

数日後には 2 年ぶりの開催となるマレーシア旅行業協会(MATTA)フェアが控えていたが、入り口のノートに携帯番号と名前を書けば入れるというので、公共交通機関を乗り継いで会場の世界貿易センター・クアラルンプール(WTKL)へ駆け付けた。

体温測定などに応じると無事入館でき、MATTA フェアを見て回ったが、9 月に始まったクダ州ランカウイ島の「トラベルバブル」情報は見当たらず、海外ブースも日本や台湾、トルコなどごくわずか、国内も全 13 州のうち 7 州のみで期待外れの内容だった。しかし、例年通り国内旅行の商品を買いあさるマレーシア人が見られたのは、コロナ禍

からの夜明けを思わせる光景だった。

私のいる大学は元スランゴール憲兵隊本部跡地にあり、敷地は狭く、入構時に身分証明書の確認とマイスジャテラによる QR コードのスキャン、非接触での体温測定と手指消毒のフルコースが必要だ。一方、時折訪れる国立大の広いキャンパスでは入構時のチェックはなく、各建物でのスキャンのみで、学内食堂の再開も早かった。

年末が近づくと、私大の寮には学生が戻り始め、少しずつキャンパスもにぎやかさを取り戻した。年明けにクラウド経由で提供される劇場「Cloud Theatre」でのオンライン公演のため、学生演劇の大道具の準備や稽古も始まった。

教員はキャンパスへの出講を減らし、講義も会議もまだオンラインのようだったが、職員はおおよそキャンパスで仕事を始めていた。身の回りに陽性者が出ることもなく、軽度接触者の存在は耳にしたが、年末は誘われるまま南部ジョホール州や北部ペリス州へ国内旅行にも赴いた。

施設入り口でマイスジャテラによる QR コードのスキャンや消毒をする人のほか、個人で消毒液を持ち歩く人もいて、公共交通機関で座席などに吹きかける姿や、二重マスクも目に付いた。

ヒンズー教の休日でもあるタイプーサムは、スランゴール州のバトゥ洞窟で、個人みこし「カバディ」以外の行事は通常通り実施された。春節(旧正月)は元新村地域など華人居住区では爆竹が鳴り響き、大みそかから三が日と九日目の天公祭など、毎晩どこかで花火が上がっていた。シンガポールとの間で隔離なし入国を認める「ワクチンラベルレーン」(VTL)が始まり、2 年間帰郷できなかったマレーシア人たちも戻ってきた。

マレーシアのウィズコロナはまだ続くが、アフターコロナならぬ新常态として、ワクチン接種とともにこの生活が続いていくのかもしれない。

< 筆者紹介 >

マレーシア・マラヤ大、シンガポール・南洋工科大客員を経て、現在マレーシア・新紀元大学院客員教授としてスランゴール州カジャン在住。観光学部研究とマレーシアなど島しょ部の華人文学研究。30 年にわたり、作者のオーラルヒストリー(口述歴史)から翻訳までを手掛け、現地華人社会でもよく知られている。主な共著に「東南アジア文学への招待」(2001 年、段々社)、「シンガポールを知るための 65 章 第 5 版」(2021 年、明石書店)や「トラベルライティングと国民国家」(2022 年、観光学部紀要 24)など。